

消化器内科・肝臓外来のご紹介

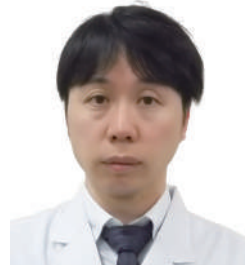
熊本地域医療センター消化器内科では、肝機能異常、脂肪肝、B型・C型肝炎、アルコール関連肝疾患、自己免疫性肝疾患、肝硬変、肝細胞癌など、肝疾患全般の診療を行っております。

近年、脂肪肝（MASLD）患者の増加や高齢化に伴い、肝疾患を有する患者様を診療する機会が増えています。一方で、肝疾患は自覚症状に乏しく、発見時にはすでに進行していることも少なくありません。当外来では適切な血液検査や画像検査を行うことで、肝疾患の早期診断および重症度評価に努めています。

また、肝硬変に伴う食道胃静脈瘤、腹水、肝性脳症などの合併症についても適切な評価・管理を行っております。肝細胞癌については、診断から治療後の経過観察まで対応し、必要に応じて熊本大学病院をはじめとする専門施設と連携しながら診療を行っております。

当院は地域医療支援病院として、地域の先生方との連携を重視しております。精査や治療方針決定後は、かかりつけ医の先生方へ速やかに逆紹介し、地域完結型医療の実践に努めております。

肝機能異常や脂肪肝、慢性肝疾患のフォロー、肝腫瘍の精査などでお困りの際は、ぜひ当外来をご活用いただければ幸いです。今後とも地域の先生方との連携を大切にしながら、より良い肝疾患診療を提供してまいります。



消化器内科
非常勤医師

魚嶋 晴紀
Haruki Uojima

- ・日本内科学会（総合内科専門医・指導医）
- ・日本消化器内視鏡学会（専門医・指導医）
- ・日本肝臓学会（肝臓専門医・指導医・評議員）
- ・日本消化器病学会（専門医・指導医・評議員）

● 消化器内科 外来診療週間スケジュール ●

診療科	受付	月	火	水	木	金
消化器内科		いわたひろふみ 岩下博文（初診）	いしかわたら 石川洸大	わかこうたろう 脇幸太郎	ふるしょうゆういち 古庄雄一（初診）	むらなかゆうき 村中佑旗
		きよすみたけあき 清住雄昭（再診）			きよすみたけあき 清住雄昭（再診）	
	午前				うおじまはるき 魚嶋晴紀（肝臓外来・初診）	

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2026年7月27日（月）19：00～20：00

形式／ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加：ZOOM 会場参加：新館6階ホール

申込方法

kumamotochiiki@gmail.com（※1）までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。（後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。）



（※1）メール作成用QRコード

①症例報告

『表在型食道癌治療後の狭窄に対してブジーキャップを使用した一例』

消化器内科 古庄 雄一 医師

②特別講演

『痛い！と言ったら痛い。痛みのお話。』
CC「73」：慢性疾患・複合疾患の管理

麻酔科 柳 文治 医師

Kumamoto Regional Medical Center

熊本地域医療センター

〒860-0811 熊本県中央区本荘5丁目16番地10号



TEL：096-363-3311（代表）
FAX：096-362-0222

- ◆ 紹介や転院調整 096-366-1323（地域医療連携室）
平日9：00～17：00 090-2964-0600（医師専用個別相談）
- ◆ 外来の予約 平日8：30～18：00 090-9472-1177（外来予約専用）
- ◆ 検査の予約 平日8：30～18：00 096-366-1323（地域医療連携室）

<https://krmc.city.kumamoto.med.or.jp>



Kumamoto
Regional
Medical Center

熊本地域医療センターだより

Nerus

2026.07

Vol.254

TOPICS

呼吸器内科診療の「その先」を見据えて

～個別化医療、気管支鏡診療、他職種連携で地域医療をささえる～

基本理念：かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。そんな病院をめざし、地域社会に貢献します。



呼吸器内科診療の「その先」を見据えて

— 個別化医療、気管支鏡診療、他職種連携で地域医療をささえる —



呼吸器内科部長
 アレルギー内科部長
 アレルギー診療センター
 副センター長

津村 真介
 Shinsuke Tsumura

- ・日本内科学会（認定医・総合内科専門医）
- ・日本呼吸器学会（専門医）
- ・日本呼吸器内視鏡学会（専門医・指導医）
- ・日本アレルギー学会（専門医）
- ・臨床研修指導医

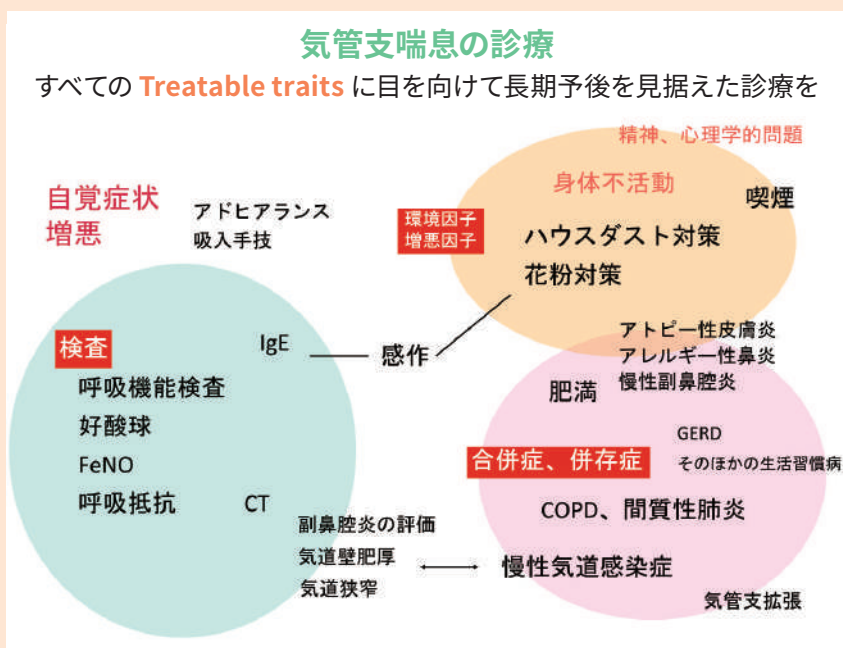
概要・診療基本方針

当科では、気管支喘息、COPD、呼吸器感染症、間質性肺疾患、肺がんなど呼吸器疾患全般の診療を行っています。患者さん一人ひとりの病態だけでなく、生活背景や価値観にも配慮した診療を心がけています。

■ 主な専門疾患へのアプローチ

個別化された喘息診療（Treatable traits の考え方）

患者さんの長期予後を見据え、一人ひとりにとって最適な治療強度を見極めることを目標に診療を行っています。またそれは、疾患の重症度だけでなく、患者さんの生活背景や価値観、経済的負担などの社会的側面も配慮するようにしています。肺機能検査に加え、血液検査、呼気 NO、呼吸抵抗測定、画像評価などを組み合わせ、病態を多面的に評価します。Treatable traits の観点から、感作アレルゲンへの指導対策も行い、アレルギー性鼻炎や慢性副鼻腔炎、アトピー性皮膚炎などの併存疾患の治療も専門科と連携しながら取り組んでいます。また生物学的製剤導入の適応判断や、治療強度の最適化にも積極的に取り組んでいます。



肺がんについて

肺がん（特に肺腺癌）の治療は近年、飛躍的に進歩しています。がん細胞の遺伝子異常や PD-L1 発現などの腫瘍特性を踏まえ、分子標的治療薬や免疫療法を含めた最適な治療を提案します。院内に緩和ケア科、緩和ケア病棟を併設しており、早期段階から治療終盤まで、密な連携が可能です。

肺炎について

超高齢社会において増加する細菌性肺炎に対し、多職種連携で取り組んでいます。理学療法士・言語聴覚士と連携し、発症早期からの離床、歩行、嚥下訓練などのリハビリテーションを実施します。嚥下機能が低下した患者さんでも、可能な限り不必要な絶食を避け、安全に「口から食べる」ことを尊重した支援を行います。また肺炎以外にも、結核や非結核性抗酸菌症、肺真菌症などの慢性的な気道感染症の診療も可能です。

診療体制に関する重要なお知らせ・地域連携のお願い

▶ 地域医療機関との連携について

2023 年度まで 4 名体制であった呼吸器内科は、2026 年度より常勤 2 名＋時短 1 名の体制となっております。常勤医減少に伴い、従来と同様の診療体制を維持することが難しくなっています。

そのため患者さんをより円滑に受け入れるための体制づくりとして、一般外来部分予約制の活用や、地域の先生方と切れ目のない診療体制の構築について、これまで以上のご協力をお願いする場合があります。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

■ 先進的な検査と治療技術

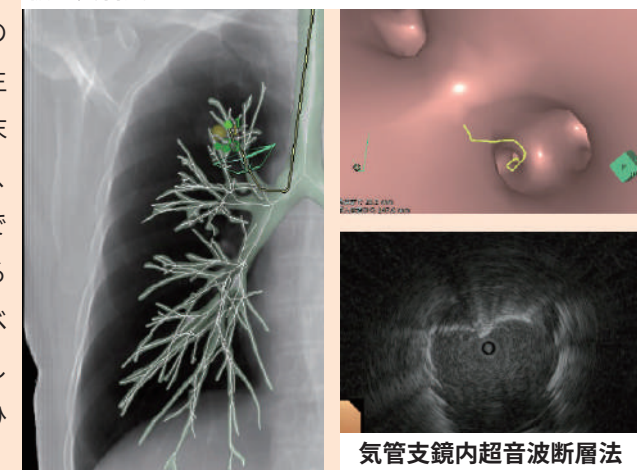
慢性咳嗽に対する新たな取り組み

新たな取り組みとして、難治性慢性咳嗽に対する認知行動療法を導入しています。当院の言語聴覚士が担当します。薬物治療のみでは改善が乏しい症例についてもぜひご相談ください。

気管支鏡

近年の進行期肺癌治療においては十分な組織量を得て免疫染色や遺伝子診断などを行うことが最優先です。病変の位置や気管支との距離なども含め CT ガイド下や外科的生検の方が適しているケースはあり見極めは重要ですが、末梢肺野病変に対しては、超音波気管支鏡、極細径気管支鏡、バーチャル気管支鏡などを活用し、可能な限り気管支鏡で診断をつけることを目指しています。気道狭窄に対するステント留置やマイクロ波凝固などの気管支鏡インターベンションも継続して実施しています。世代交代はありましたが、これからも気管支鏡を用いた治療は当科の強みのひとつであると自負しています。

仮想気管支ナビゲーションシステム SYNAPSE VINCENT



気管支鏡内超音波断層法

■ 成人アレルギー外来

成人アレルギー外来

ここで成人アレルギー外来についてもご紹介させていただきます。食物アレルギーを中心に診療しています。食物アレルギーでは必要最小限の除去を原則とし、栄養面や QOL にも配慮した診療を行っています。薬剤アレルギーについては、リスクの観点から適応はしっかりとした検討が必要ですが、皮膚テストや負荷試験にも対応しています。